

第64期 株主通信

2022年4月1日から2023年3月31日まで



セブン工業株式会社

(証券コード：7896)



ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第64期事業年度は、近年にない円安、エネルギーコストの高騰から製造原価が急激に上昇したことに加え、住宅価格の高騰を背景に持家を中心とした住宅需要に陰りが見られるなど、厳しい経営環境で推移いたしました。こうした状況下、顧客ニーズに的確な対応を図ることで安定した受注確保に努めるとともに、高いプレカット技術を活かした省施工商品の拡充や非住宅分野への領域拡大といった施策を推進した結果、売上高は増収となりました。一方利益面に関しては、前述の特殊な外部環境の影響により内装建材事業の収益が圧迫されたこと、また、生活必需品のインフレの状況を勘案し従業員に対する期末一時金を支給したことにより、減益の結果となりましたことをご報告申し上げます。

今年度も金利動向はじめ不透明で厳しい環境下ではありますが、脱炭素に向けた非住宅分野での木質化、及び省施工への貢献といった当社ならではの「差別化の推進」と「提案力の強化」に努め、お客様に選ばれる企業に資する施策を講じてまいります。株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員 木下 浩一

会社の現況に関する事項 (1) 事業の経過および成果

当事業年度における我が国経済は、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の不安定感を背景に、あらゆる資源価格の上昇や資源の調達にかかるリスク等が深刻化するなか、急激な円安の進行も重なり極めて不透明な経済環境下で推移いたしました。

当社が属する住宅業界におきましては、「ウッドショック」による世界的な木材供給不足は収まったものの、近年にない為替水準から海外資材の調達コストの高騰が進んでいることに加え、物価の上昇及び不透明な経済状況を背景に消費マインドの減退により、新設

住宅着工戸数は持家を中心に減少が続く状況下で推移いたしました。

こうした厳しい状況下、顧客ニーズへの的確な対応を図ることで市場からの信頼性をより高める施策を講じ、継続的な受注確保に努めることを第一とし、両事業部門共に有する高いプレカット技術を活かした省施工商品の更なる拡充や非住宅分野に対する経営資源の投下等を通じて、当事業年度のスローガンである「Be Professional II」の体現を図ってまいりました。

内装建材事業においては、急激な為替の円安進行や電力費などエネルギー費用の高騰等、特殊な外部環境の影響により想定以上に収益

が圧迫されていることから、販売価格の適性化を進めると同時に機動的かつ柔軟な生産体制の再編及び使用する原材料の見直し等の検証を進め、生産性向上並びに収益性改善に努めました。また、顧客に対する安定供給や高品質の製品を提供するといったメーカーとしての原点を意識し、市場からの信頼を得るとともに非住宅分野への積極的な販売や階段部材を主とした省施工商品やデザイン階段、抗菌製品の拡充等付加価値の向上を進めてまいりました。こうした取り組みにより受注は堅調に推移し、第3四半期以降、収益体質は徐々に良化傾向にありましたが、十分な改善には至らず、厳しい外部環境の影響を色濃く受けた結果となりました。

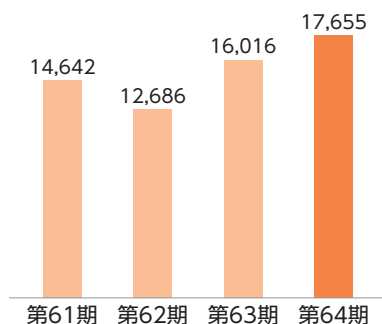
木構造建材事業においては、成長戦略の中

核である非住宅分野の領域拡大に向けた施策及びプレカット、パネル、建装の三位一体の取り組みが奏功し、安定した受注及び収益確保に繋げることができました。特に当事業年度は大型非住宅物件を中心とした建装事業が拡大し、難易度の高い木造建築物を手掛けている技術力を積極的にアピールし、更なる需要開拓を図ってまいりました。また、新商品であるサッシ付壁パネル「NEO SMART PANEL」の展開において、販売網の確立に向け、複数の協力企業との提携関係による拡販体制の構築を進めてまいりました。ウッドショックの時勢が落ち着きを見せ、調達リスク等にかかる舵取りの困難さから脱却できた一方、価格競争の激化が進展しているなか、攻守のバランスを意識した慎重かつ迅速な事業運営に努

売上高

176億55百万円
(前期比10.2%増)

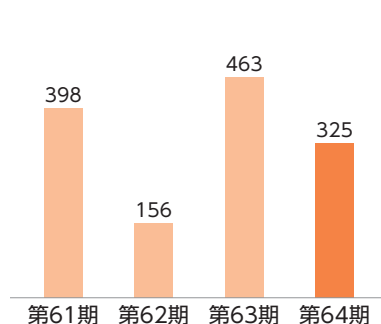
(単位：百万円)



営業利益

3億25百万円
(前期比29.6%減)

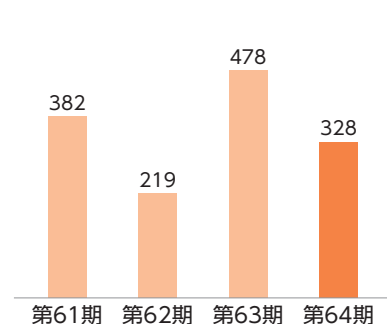
(単位：百万円)



経常利益

3億28百万円
(前期比31.4%減)

(単位：百万円)



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前事業年度の期首から適用しております。

営業の概況

め、堅調な業績を維持することができました。

これらの結果、当事業年度の売上高は、176億55百万円と前事業年度と比較し16億39百万円（10.2%）の増収となりました。利益面では前述のとおり急激な為替の円安進行や電力費などエネルギーコスト高騰の影響に加え、急激な物価上昇が進行するなか、取締役、監査役及び執行役員を除く全従業員に対し、インフレに対応する期末一時金を支給した結果、営業利益は3億25百万円と前事業年度と比較し1億37百万円（△29.6%）の減益、経常利益は3億28百万円と前事業年度と比較し1億50百万円（△31.4%）の減益、当期純利益は2億31百万円と前事業年度と比較し1億30百万円（△36.1%）の減益となりました。

剰余金の配当につきましては、当事業年度の

業績、財務状況など総合的に勘案し、1株につき10円の期末配当とさせていただきます。

(2) 対処すべき課題

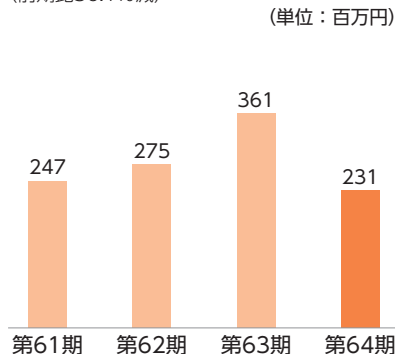
今後の経済の見通しについては、ウクライナ情勢の長期化による資源価格高騰等の影響や国内外の金融政策の動向等、先行きについては不透明な経済環境が続くものと予測されます。

当社が属する住宅業界におきましては、不透明な経済環境を背景とした消費マインドの低下や資材高騰の影響による市況の悪化が見込まれ、厳しい事業環境が予測されます。

当社はこの2年間、「Be Professional」をスローガンに掲げてきました。コロナ禍に加えウッドショック、エネルギーコストの高騰、

当期純利益

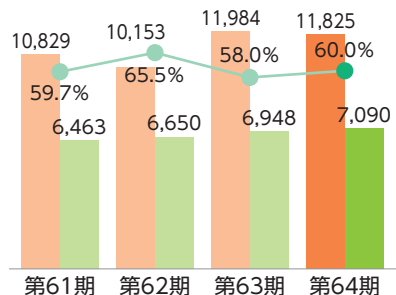
2億31百万円
(前期比36.1%減)



総資産／純資産／自己資本比率

(単位：百万円)

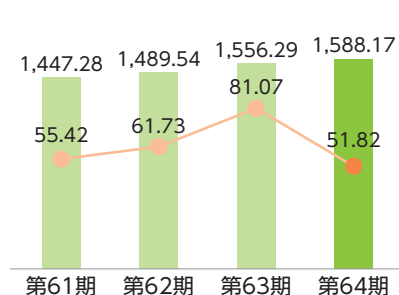
■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率



1株当たり純資産／1株当たり当期純利益

(単位：円)

■ 1株当たり純資産 ● 1株当たり当期純利益



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前事業年度の期首から適用しております。

※2020年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第61期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しております。

急激な円安進行等かつてない経営環境を背景とし、1年目は長年受け継がれてきた「社是」の原点に立ち返る。2年目はプロとしての仕事と意識を更に進化する。このスローガンが浸透、醸成してきたことで、異例な環境下でありながら挑戦し続けることができました。翌事業年度は最も厳しい経営環境が予測されることから、本スローガンを継続し、仕事や意識に更なる磨きをかけるとともに木材加工のプロフェッショナルとして、木材の利用促進・省施工・省エネルギー住宅などウッドファーストを背景とした社会的要望に応える仕事への質を高めてまいります。

内装建材事業におきましては、この数年非常に厳しい事業環境が続き、まずは収益体制の改善が最重要課題と認識しております。エネルギー費用及び購買品の価格が上昇するなかで販売価格の適正化を進めると同時に素材開発・変更による原価低減、国内外の生産拠点の再編による調達とコストの適正化や2024年問題に対応する物流の最適化、将来を見据え、生産性向上を目的とした省力化、省人化によるコスト競争力の強化と収益性の改善に努めます。また、引き続き省施工商品や非住宅分野に注力しながら、リフォーム、ファニチャー、省施工をキーワードに新たな市場開拓に取り組んでまいります。

木構造建材事業におきましては、引き続き非住宅分野への領域拡大を図り、木質の構造躯体における多面的な展開が可能な体制のもと、建装事業及びパネル事業の更なる需要深耕と差別化戦略を進めてまいります。特に新商品展開として準備を進めてきたサッシ付壁パネル「NEO SMART PANEL」については、協力企業との提携関係による拡販体制のもと展開を強化するとともにパネル販売を主体としたプレカットの新規得意先開拓など事業拡大に向けた布石を講じてまいります。加えて、共同住宅の省施工に対応する階段室のユニット化事業の軌道化を進めるなど、成長戦略であるパネル事業の拡充と収益拡大を図ってまいります。

両事業部門とも住宅市場の縮小化に備え、非住宅分野への領域拡大及びBtoC販売チャネルの確立等に向けた差別化戦略と提案力の強化を図ってまいります。また、新たな市場の需要に応える新商品開発及び展開を進め、新設住宅着工戸数に影響されない事業分野への取組強化を図るとともに市場から信頼される品質、サービスの提供に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (2023年3月31日)	前事業年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産	7,541	7,727
固定資産	4,284	4,257
有形固定資産	4,002	3,926
無形固定資産	63	74
投資その他の資産	218	256
資産合計	11,825	11,984
負債の部		
流動負債	3,687	4,322
固定負債	1,047	713
負債合計	4,734	5,035
純資産の部		
株主資本	7,090	6,948
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,675	2,675
利益剰余金	2,185	2,043
自己株式	△244	△244
評価・換算差額等	0	0
その他有価証券評価差額金	0	0
純資産合計	7,090	6,948
負債及び純資産合計	11,825	11,984

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	前事業年度 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
売上高	17,655	16,016
売上原価	15,194	13,469
売上総利益	2,460	2,546
販売費及び一般管理費	2,134	2,083
営業利益	325	463
営業外収益	11	22
営業外費用	8	6
経常利益	328	478
特別利益	1	50
特別損失	2	4
税引前当期純利益	327	524
法人税、住民税及び事業税	66	169
法人税等調整額	30	△6
当期純利益	231	361

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ セグメント別品目構成

内装建材事業

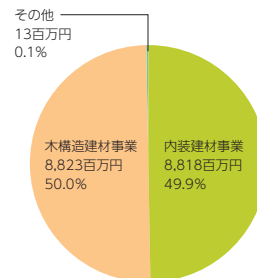
内装部材
(階段・手摺・カウンター
和風造作材・框・洋風造作材)

木構造建材事業

構造部材
(プレカット加工材・住宅パネル)
施設建築・建方請負

その他

賃貸事業 (不動産の賃貸管理)

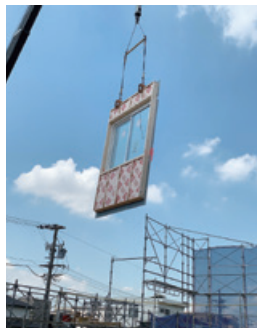


壁パネルにサッシをプレキャスト化。
大幅な工期短縮、作業負荷の軽減、施工品質安定化に貢献

セブン工業と兼希工業（群馬県伊勢崎市）が共同開発した『NEO SMART PANEL（ネオスマートパネル）』は、断熱材、サッシをあらかじめ工場に取り付けた、最大幅1820mmで柱間に収まるサイズの在来工法用壁パネルです。

施工現場では、間柱・窓台まぐさ施工、耐力面材施工、サッシ施工、断熱材施工を省略でき、工期を大幅に短縮できる省力化のほか、産業廃棄物の排出量削減にも貢献。また、作業員の技術に依存せず、高品質な施工ができるのもメリットです。

サッシの干渉を防ぐ専用ラックで平積みにする工夫をしているため、トラックの積載効率が良く、ラックごとクレーンでつり上げ、床合板の上に設置することで施工の省力化を実現します。



ネオスマートパネルの展開について 担当の事業本部長よりご説明いたします。



取締役 常務執行役員
木構造建材事業本部長
横井 勝

最近、ニュース等でも報道がなされておりましたが、大工業者の減少及び高齢化が進展し、建築現場の省施工化が社会的課題と認識され始めました。我々としては、暫く前からこのような時勢が到来することを予測しており、「省施工」は新事業の開発または展開するための重要なファクターとして捉え、ネオスマートパネルもこうした点に着目して開発を進めてきた商品です。約2年前から事業の立ち上げを進め、これまで複数のパートナーシップ企業との提携関係や販売網の構築を進めるなど準備を進めてまいりました。

ネオスマートパネルは省施工、工期短縮を図ると同時に産業廃棄物の排出量削減、住宅の断熱性能向上に貢献できる環境的側面を持つ商品ということで、引き合いも増えてきており、提携関係の拡充を含め、今後本格的な事業展開を図ってまいります。また、パネル事業は、当社の成長戦略の一躍を担う位置付けであり、この事業を通じて、構造物プレカットとのセット販売といった、我々が保有するリソースの一体化を目指した展開を図っていきたいと考えております。

日テレ系水曜ドラマに**美術協力**させていただきました



2023年4月から6月にかけて日テレで放映された、水曜ドラマ「それってパクリじゃないですか?」の撮影セットに美術協力させていただきました。



ドラマの舞台となる中堅飲料メーカーのオフィスに、
・二本桁デザイン階段【TWO BEAM (ツービーム)】
・【スチール製オープン手摺ユニット シンプルタイプ】
・壁掛け棚【ウォールシェルフ】を採用いただきました。

ホームページ及び Instagramのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためには是非アクセスしてください。また、Instagramを通じて多くの方々に当社の魅力を知っていただきたく、当社情報（製品・サービスや施工事例、行事・イベントなど、事業活動の全般）を積極的にお届けしております。ぜひ、フォローをお願いします。



Instagram

セブン工業

<https://www.seven-gr.co.jp/>

検索

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 名古屋市中区栄三丁目15番33号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

(インターネット) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
ホームページURL

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

上場証券取引所 東京証券取引所・名古屋証券取引所

公告の方法 電子公告により行う

公告掲載URL

<https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7896/7896.html>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

■ 本 社 〒505-0016
岐阜県美濃加茂市牧野1006番地
電話 (0574) 28-7800 (代表)

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

